

平素から組合員・利用者の皆さまには格別のご愛顧を賜り心よりお礼申し上げます。

この度、2021年度の経営内容をご報告するにあたり、「ディスクロージャー誌」を制作いたしました。ぜひご一読いただきたくお願い申し上げます。

さて、2021年度の日本経済は、新型コロナウイルスの断続的な感染拡大が続く中、度重なる行動制限の発出やワクチン接種の進展など、感染抑制によって、国内経済活動は持ち直しの動きがみられました。しかしながら、年明けには新たな変異株による爆発的な感染拡大となり、原油の高騰や東欧情勢への警戒感などと合わせ、先行きは極めて不透明な状況です。

農業を取り巻く環境は、2021年5月に農林水産省が策定した「みどりの食料システム戦略」により、生産力の向上と「SDGs」や環境などに配慮した持続可能な農林水産業の両立が求められました。さらにJAに対しては、「規制改革実施計画」の閣議決定や「早期警戒制度」の見直しにより、組合員との徹底した話し合いやさらなる健全性の維持向上に向けた経営改善が求められました。

こうした状況の中、JAはだのでは、目標とする農業者の所得増大や農業生産の拡大、地域の活性化に資するべく、「不断の自己改革」に取り組むとともに、食と農を基軸に第五次中期経営計画（2019年度～2021年度）最終年度の実践に取り組みました。

組織運営では、新型コロナウイルス感染症リスクを勘案した組合員の意見集約につとめるとともに、インスタグラムなどを活用した情報配信を行い、農業や協同組合への理解促進をはかりました。

営農指導事業では、営農サポートシステムによる農業経営支援体制の構築に取り組むとともに、営農指導員の育成強化や中学校給食への農産物安定供給につとめました。また、「はだの都市農業支援センター」と連携し、観光農業の振興や鳥獣被害への対策に取り組みました。販売事業では、「はだのじばさんず」の一層の充実をめざし、出荷農産物の高品質化とジェラートショップの開設準備をすすめました。また、販売体制のさらなる強化と事業効率化を目的に、販売部門の一元化やシステムの導入をはかりました。経済事業では、効果的な施肥管理や省力資材の活用など低コスト栽培の提案とより安価な生産資材の供給によって、トータル生産コストの削減に取り組みました。さらに、金融共済事業では、地域に密着したきめの細かい金融サービスを提供するとともに、「3Q訪問活動」を展開し総合保障の充実につとめ、組合員・利用者の満足度向上をはかりました。

経営管理では、金融事業の再編をはじめとする事業再構築計画の内容を踏まえた「第六次中期経営計画」（2022年度～2024年度）の策定をすすめました。また、役員改選に伴う業務執行体制の維持とコンプライアンス態勢の徹底により、経営の健全性と信頼性の維持をはかりました。

JAはだのでは、「食と農を基軸として地域に根ざした協同組合」として、さらなる地域農業振興と豊かで暮らしやすい地域社会づくりに取り組んでまいります。

皆さまの一層の参加、参画および利用結集をお願い申し上げます。

秦野市農業協同組合

代表理事組合長 宮永 均